

ITGI *Japan* 日本ITガバナンス協会 案内

## 日本のITガバナンスを世界のトップランナーに

### 日本ITガバナンス協会 (ITGI Japan)とは

#### 設立趣旨

ISACA (情報システムコントロール協会)は、ITガバナンスの重要性を早くから認識し、そのためのツールや考え方などを普及させる為の団体として、1998年にITガバナンス協会 (ITGI, IT Governance Institute) を設立しました。

ITGIが開発・公表したCOBIT及び関連するツールは、グローバルなビジネス・コミュニティの中で認知され普及してきました。2006年、ITGIの日本の拠点として、ISACA日本支部のメンバーを中心に、ITGI Japanが設立されました。

#### 設立母体・関連団体

ITガバナンス協会 (ITGI) - 国際本部

ISACA - 国際本部

ISACA - 東京支部

ISACA - 大阪支部

ISACA - 名古屋支部

#### 活動方針-Mission

##### Global to Local

世界のITガバナンスのベスト&グッドプラクティス及び知識や研究成果を日本の企業社会へ速やかに紹介し、さらにそれらに日本における環境や事情を反映させつつ普及・定着の促進・支援を行います。

##### Local to Global

日本のITガバナンスのベスト&グッドプラクティス及び調査研究活動の成果を世界に向けて発信します。

##### As a Member of Global Community

グローバル環境におけるITガバナンスにおける研究・調査活動への参加、及びそのような活動の支援を行います。

### ITGI Japanの活動成果

#### ITガバナンス関連文献の翻訳と公開

##### 翻訳を完了し提供中のもの

( ISACA Bookstoreから販売 ) の印の無いものはITGI JapanのWebサイトを經由して無償ダウンロードにて提供中)

- COBIT 4.0
- COBIT 4.1
- IT Control Objective for SOX Ver.2  
サーベインズ・オクスリー法(企業改革法)遵守のためのIT統制目標  
財務報告に係る内部統制の設計と導入におけるITの役割について(第2版)
- VAL ITシリーズ
  - ・ Val IT Framework  
Val IT フレームワーク
  - ・ Val IT Business Case  
Val ITビジネス・ケース
  - ・ Val IT ING Case Study  
Val IT ING 社ケーススタディ
- Board Briefings on IT Governance 2nd Edition  
取締役会のためのITガバナンスの手引 第2版
- Information Security Governance: Guidance for Boards of Directors and Executive Management 2nd Edition  
情報セキュリティガバナンス 取締役会と役員に対するガイダンス 第2版

- Security, Audit and Control Features of SAP R/3  
「セキュリティ、監査、コントロールのための機能SAP R/3 テクニカルリスク・マネジメントリファレンス・ガイド第2版」

ISACA Bookstoreから販売

- Security, Audit and Control Features of Oracle EBS  
「セキュリティ、監査、コントロールのための機能 Oracle® E-Business Suite テクニカルリスク・マネジメントリファレンス・ガイド第2版」 ISACA Bookstoreから販売

##### 現在翻訳プロジェクト進行中

- IT Control Objectives for Basel II
- IT Assurance Guide
- COBIT Quick start 2nd Edition
- IT Governance Implementation Guide: Using COBIT and Val IT, 2nd Edition

ITGI Japanの活動をご理解いただき、賛助していただいている企業様のご貢献によって、これらの翻訳成果は生み出されました。

#### 日本語によるITガバナンス関連文献の出版

- COBIT実践ガイドブック(日経BP)

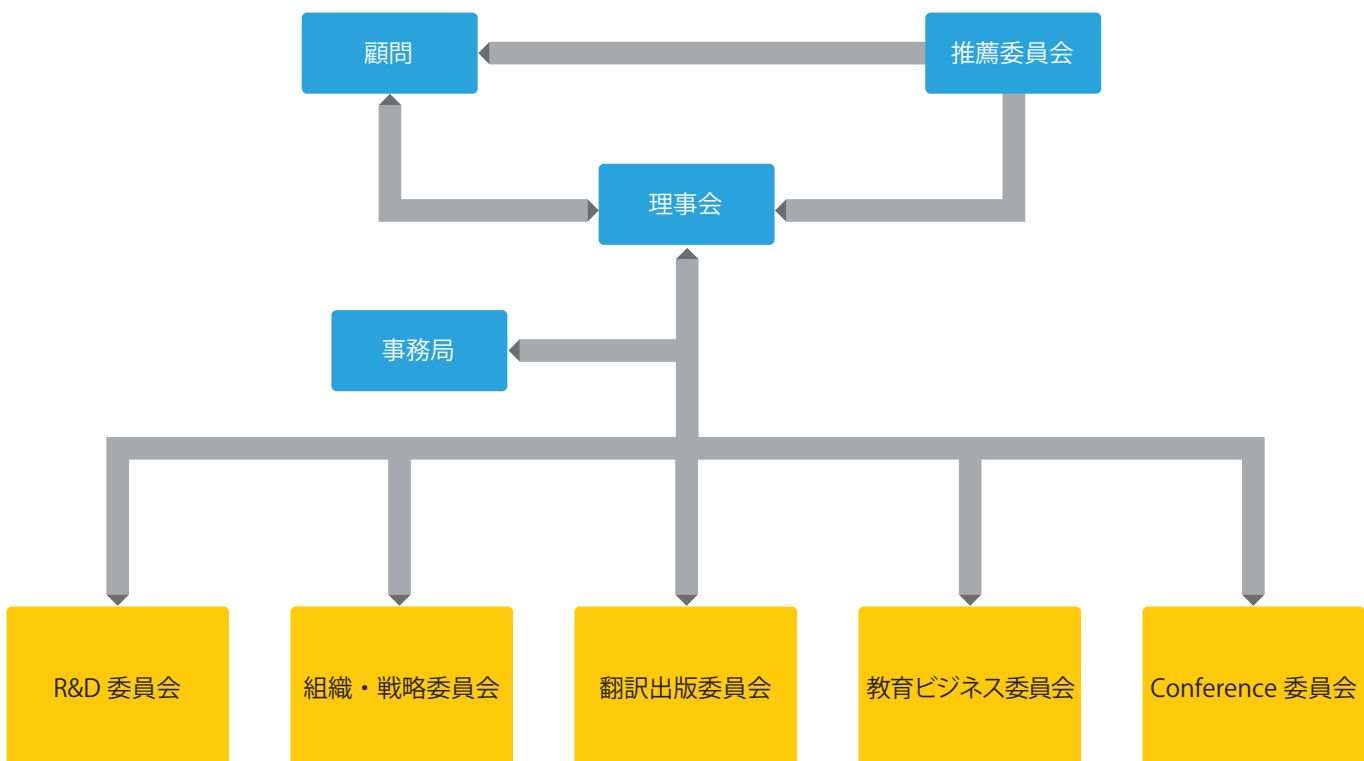
# About ITGI Japan

## 組織

日本ITガバナンス協会会長

松尾 明 (ISACA東京支部元会長、ISACA国際本部元会長、青山学院大学教授)

ITGI Japan 2008年度体制 概念図



当協会は個人会員を持たず、賛助会員企業の会費により運営されています。

## 住所

〒108-0075

東京都港区港南2-16-8-3003

(株)ラーニング・アーキテクチャ研究所内

<http://www.itgi.jp>

お問い合わせ [office-itgi@itgi.jp](mailto:office-itgi@itgi.jp)

## COBITの紹介

### COBITフレームワークの進化

COBITの「フレームワーク」は1994年公表の第一版で定義されました。その定義に従って国際的な基準やガイドラインおよびベストプラクティスの研究が行なわれ、これが「コントロール目標 (Control Objectives)」の開発に結びつきました。

次に、これらのコントロール目標が適切に導入されているかどうかを評価するために、「監査ガイドライン」が開発されました。

その後、1998年に第二版が、2000年に第三版がリリースされました。第三版では「マネジメント・ガイドライン」も追加され、2005年末にCOBIT4.0がリリースされ、RACIチャート、KGI、KPIといったツールも整備されました。現在は、COBIT4.0のフィードバックを反映し、COBIT4.1に至っています。

### COBITの関連製品

COBITは複数の冊子で構成されています。COBITに関する製品群は、ITガバナンスに関する冊子や他の文献を併せた三角形の図で全体像をあらわしています (COBIT4.1ベース)。

右図に示されるように、COBITは組織の経営層、監査人やIT部門といった様々な方々に活用していただけるよう設計されています。COBIT製品 (ファミリー) としては、以下の資料やツールがダウンロードもしくはご利用可能です。

#### 【資料】 (2008年7月現在)

COBIT 4.0, 4.1 日本語版 (無償)

取締役会のためのITガバナンスの手引き 日本語版 (無償)

IT Assurance Guide: Using COBIT (英語版のみ)

COBIT Control Practices, 2nd Edition (英語版のみ)

サーベインズオクスリー法 (企業改革法) 遵守のためのIT 統制 第2版 日本語版 (無償)

The IT Governance Implementation Guide: Using COBIT and Val IT 2nd Edition (英語版のみ)

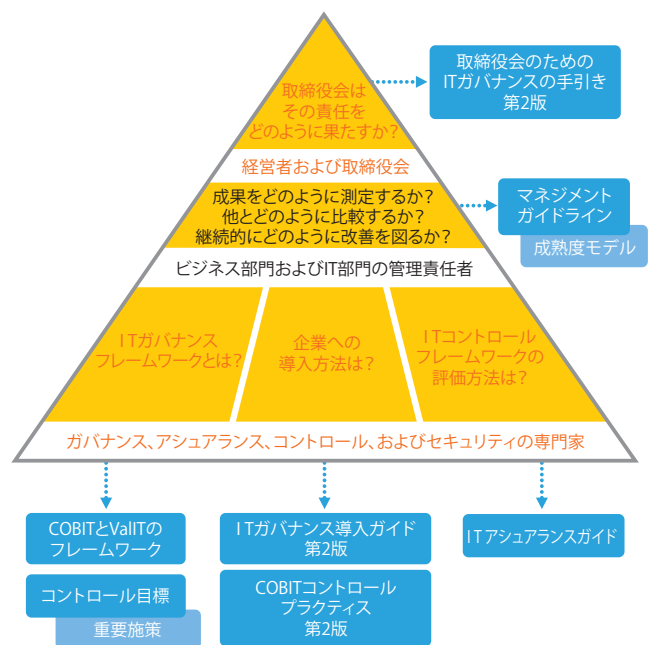
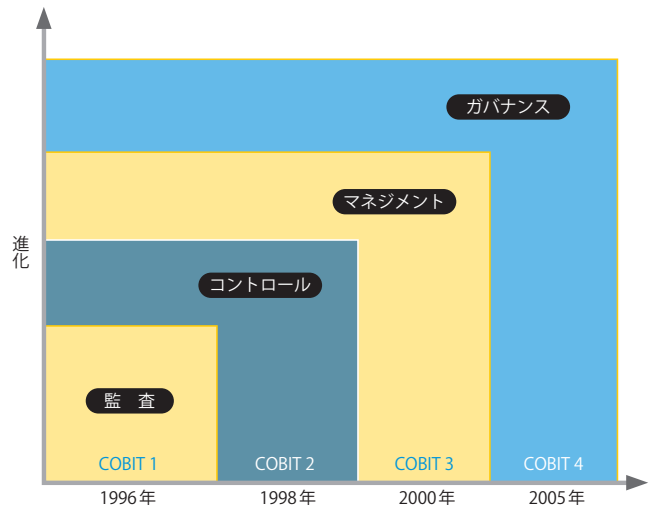
COBIT Quickstart (英語版のみ)

COBIT SECURITY BASELINE 2nd Edition (英語版のみ)

COBIT Control Practice 2nd Edition (英語版のみ)

#### 【オンライン・ツール】

COBIT Online (英語版のみ)



この COBIT に基づく製品の図は、基本的に適用できる製品と主に想定されるユーザを示したものです。これ以外に、具体的な目的別に派生した製品 (サーベインズオクスリー法 (企業改革法) 遵守のための IT 統制 第 2 版)、セキュリティなどドメインに関する製品 (COBIT Security Baseline と Information Security Governance)、あるいは特定の企業に向けた製品 (広範な IT ガバナンスの導入に向けた強化を目指す中小企業、または大企業を対象とした COBIT Quickstart) も用意されている。

## COBITフレームワークの活用

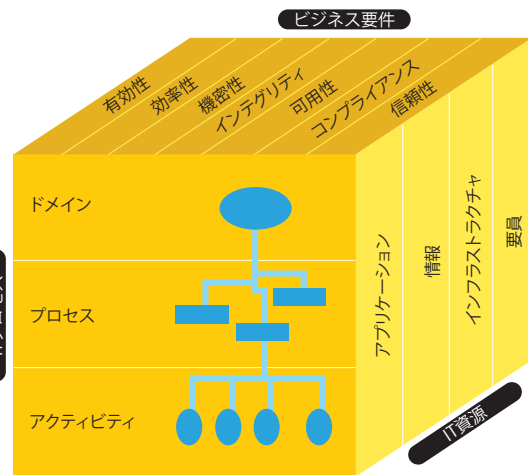
COBITフレームワークを活用するメリットとして

- COBITは他の規格やベストプラクティスと連携しており、それらと併用することができます。
- COBITフレームワークとCOBITをサポートするベストプラクティスにより、組織内のIT環境を適切に管理し、柔軟性を向上できます。
- COBITにより、ビジネス上の必要性に即応できるITコントロール環境が構築され、コントロールの実行責任という点で管理や監査の機能を提供できます。
- COBITは、ITアクティビティを管理するために役立つツールを提供しています。

また、伝統的には、情報システム監査の監査計画作成などに活用されており、現状のITコントロールの評価やリスク評価等にも活用できます。

最近では、米国SOX法への対応において、COSO準拠という点でも注目されています。一方で、リスク対応の視点に加えて、価値の創出という面での活用も可能です。

全体としては、ITガバナンスを組織へ導入するための基礎となるものとして位置づけています。



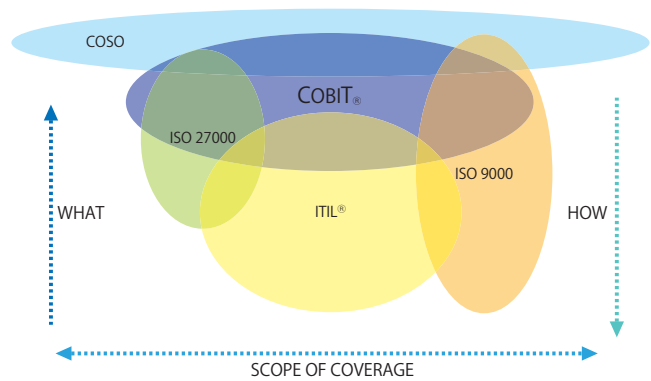
## COBITフレームワークの範囲

右図のように、COBITのもう一つの特徴は、カバーしている領域の広さです。

このため、他の各種の標準や基準の「傘」となるフレームワークとして活用されます。

例えば、ISO27000、ISO9000、ITILといった基準は実務レベルの詳細を提供し、全体をCOBITでカバーするという考え方です。

なお、各標準・基準との対応関係をマッピングした資料が、ISACA（本部）で公開されています。



ITIL® is a Registered Trade Mark of the Office of Government Commerce in the United Kingdom and other countries.

## COBITとITガバナンスについて

ITGIでは、ITガバナンスの5つのドメインを定義しています。COBIT4.0以降では、COBITの34全てのITプロセスについて、これら5つのドメインとの対応表を加えました。



### (1) ビジネスゴールとの関係

COBITの34のITプロセスの各々において、ビジネスのゴールとITのゴールの関連を示しました。これにより、利用者が自分の組織でビジネスとITを結びつけることを支援します。

### (2) 他の基準やガイドラインとの調和

ITIL、ISO27000、PMBOKおよびPRINCE2のようなガイドラインと、用語や考え方をより調和させました。

### (3) 「リスク」と「価値」のバランス

COBITはその生い立ちから、これまではコントロールとリスク管理を特に強調してきましたが、COBIT4.0ではさらにITの価値の管理についても言及し、「リスク」と「価値」両者のバランスを向上させています。

### (4) 各プロセスにおける役割と責任の明確化

COBIT4.0では、各々のプロセスにおける役割と責任を明確にするために、RACIチャートが追加されました。(RACI: Responsible, Accountable, Consulted, Informed)

### (5) プロセスの定義とプロセスフローを追加

COBITでは、プロセスのインプットとアウトプットを表示し、他のプロセスとの関連性を明示しました。

## COBIT4.1について

COBIT 4.0からCOBIT4.1への更新にあたって、どのような点が追加もしくは変更されたのでしょうか？

- コントロールプロセスおよびコントロール目標の内容の見直し
- COBITコンポーネントの相互関係の再定義
- COBITの基本原則の再定義
- ビジネス、IT全般統制および業務処理統制の関連性の精査
- ITの達成目標およびITに関するEAの再定義
- ビジネス達成目標とIT達成目標の詳細項目の見直し

## Q.どこでCOBIT4.0および4.1を入手できますか？

COBIT4.0, 4.1については、ITGI Japanのダウンロードページを経由して無償でダウンロードが可能です。

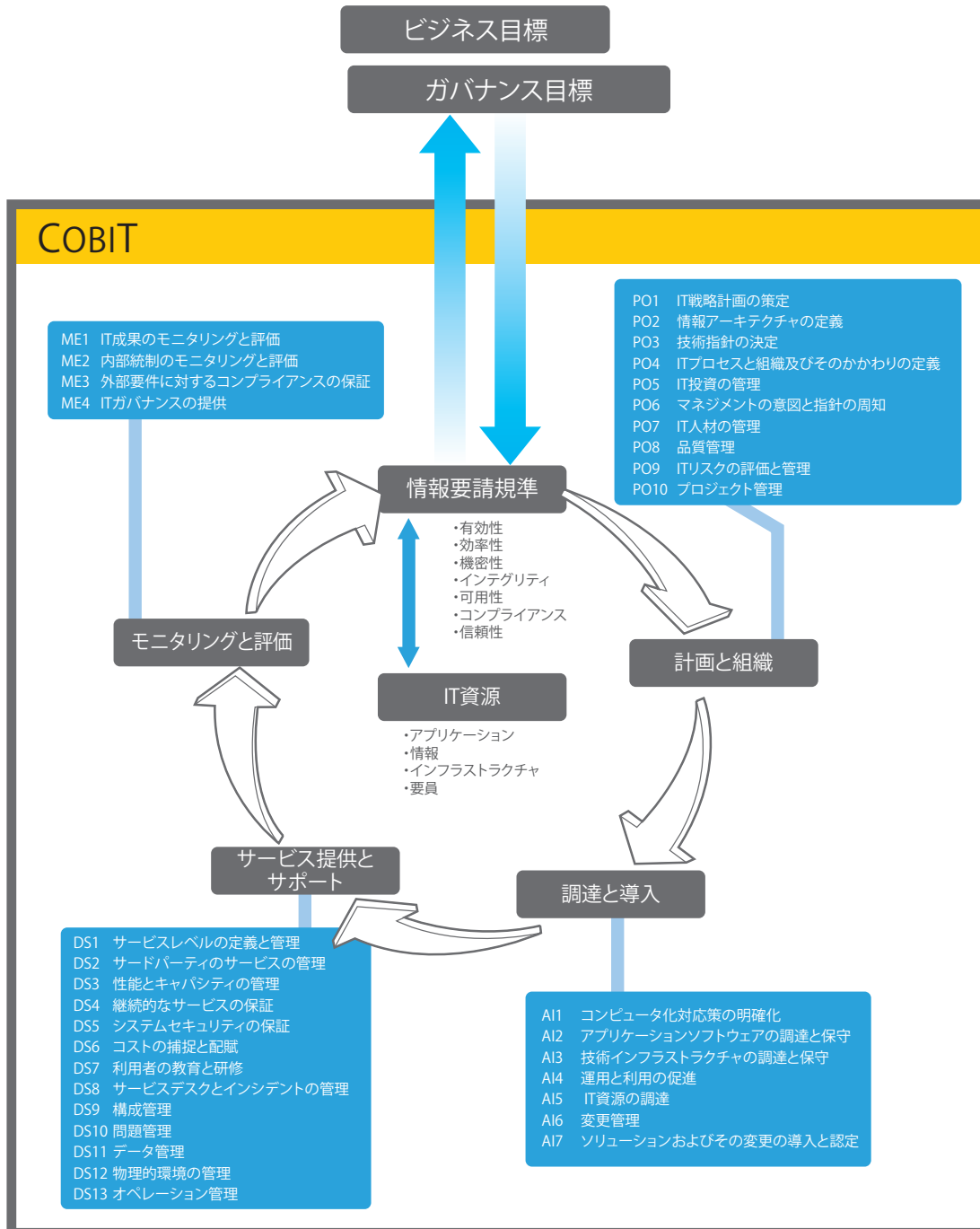
印刷製本されたものは、ISACA本部のBook Storeで購入できます。  
※ <http://www.isaca.org/bookstore>

## Q.COBITの用語和訳辞書はありますか？

COBITに対応した基本辞書は、ITGI Japanのホームページより無償でダウンロードが可能です。COBITの見出し語および巻末用語などが参照できます。

この資料は、国際本部の「COBIT Frequently Asked Questions」、ISACA本部の公開資料、カンファレンス資料、COBIT4.1をもとに、一部抜粋・加筆して作成したものです。

## COBITフレームワークの全体像



〒108-0075 東京都港区港南2-16-8-3003 (株)ラーニング・アーキテクチャ研究所内 <http://www.itgi.jp>

